

報 會

道 南

平成13年
夏 期 号

道南会創立四十周年記念祝賀会

田 沼 修 二

目出度く創立四十周年を迎えた道南会の今年の新年会は、一月二十日(土)記念祝賀会を兼ねて開催された。午後一時の開会前から多くの会員が早々と会場に姿を見せ、飛行機で来られた函館市長たちも、安全を見て早めに到着された。

内幸町プレスセンター十階ホールは、開会前から新年の挨拶や、久闊を叙する会員、そして郷里の新聞に見入る人々で一杯。函館市東京事務所と、道南会の若手の幹事は、市から贈られた巨大な横看板のはりつけに大童。

定刻一時に司会の福田さんの紹介で、中村副会長の開会の挨拶で会は始まった。続いて室谷会長から四十年の歩みを振り返りながら、発足当時から伝説である楽しい会造りを一層進めたいと挨拶があった。次に本日来会されたご来賓の紹介があった。(ご来賓のお名前は別記)

続いて予算編成などで多忙の中をわざわざ来会された、井上函館市長から祝辞を頂いた。道南会の四十年にわたる、首

都圏での活躍が市の行政に大きな力を与えて呉れていること、合わせて道南地方の発展に、常に関心を持つて努力を惜しまない道南会に、改めて感謝の意を表された。加えて最近の函館市の当面する諸課題についても抱負を語られた。

感謝状の贈呈に移り、多年に亘り会の発展に功績のあった、山根前監事に室谷会長から感謝状と記念品が贈られた。

ここからいつもの新年総会に入り、田沼副会長から業務報告と会計報告があった(十二年度収支報告は別掲)。次いで川守田常任幹事から四十周年記念行事全般についての紹介があった。

いよいよ山下名誉会長の発声で乾杯となり、引き続き賀詞交換、懇談に入つて、会場の雰囲気は盛り上がる。宴たけなわの頃、ご来賓の函館市国際観光コンベンション協会会長沼崎弥太郎氏から祝辞と、函館の観光の現状についての説明があり、観光事業について道南会への協力要請があった。さらに宴の台間を縫つ

て、新入会員の紹介があり、相馬上磯会長からブルガリアに桜を贈る運動への協力の呼び掛けもあった。昨年来NHKテレビで好評を博している、司馬遼太郎さんの高田屋嘉兵衛をモデルとした「菜の花の沖」が劇団「わらび座」によってミュージカルで上演されている。この会場に「わらび座」の若い女性団員がPRに駆け付け、サーブスに「祝い歌」と北海道の民謡と舞踊を披露して、記念祝賀会に華を添えてくれた。

唄と踊りで盛り上がったところで、福引き抽選会となり、函館往復航空券や「菜の花の沖」の優待入場券などに人気がつまった。本日の参加者は会員、百十四名。御来賓十二名。合計百二十六名であった。懇談はなかなか尽きず、あつという間に午後四時をまわり、冬の日差しが斜めになったのを機会に散会となった。

御来賓名簿

- 井上 博司 函館市長
- 沼崎弥太郎 函館市国際観光コンベンション協会会長
- 池田 克彦 関西函館をおもむ会会長
- 弦巻 綱男 東京松前会会長
- 相馬 正樹 東京上磯会会長
- 唐川 満 東京奥尻島人会会長
- 南谷 金明 東京江差会会長
- 小田桐享一 東京久遠会会長
- 川畑 行夫 松前桜育成者
- 竹中 恵一 北海道東京事務所総務課長
- 山根 昌武 北海道倶楽部事務局
- 中村 寛 函館市商工観光部長
- 手島 孝雄 サッポロビール営業推進部



松前桜鑑賞会

今年の桜の開花は平年よりかなり早く観桜会の日取りを決めるのが大変であった。ことに東京での松前桜の見頃を何時にするか、桜の育ての親である川畑行夫さんの助言に従って、四月十四日(土)に決めた。穏やかな日差しの中の松前桜は文字通り満開で「日本の春」を謳歌して呉れた。三々五々集まった会員は絢爛と咲く花の下で記念撮影を楽しんだ。

道南会創立四十周年記念観桜会は、当日正午から参会者全員が亀戸の香取神社本殿に昇り、お祓いを受けた後、社務所二階で祝賀会を開いた。当日は道南会のほか松前会、上磯会の方々もお誘いしたため一八〇名近い参会者が杯を挙げ、民謡を披露し、和気藹々の内に散会した。

なお五年前の記念植樹は順調に生育していたこともご報告しておきたい。

散会后、有志約二十名は神社前に「香取飯店」を営む川畑さんの店を訪ね、自慢の餃子をつまみながら、川畑さんから松前桜育成の苦労話を伺った。

桜を育てる土の改良、病虫害の防除など苦労つづきの日々とのことで、美しい花を眺めながら、その陰の川畑さんの努力に改めて敬意を表した。

四十周年記念郷土訪問旅行

八月一日―三日まで函館港まわりに参加すべく「ふるさと訪問旅行」を計画しましたが、旅行の超繁忙期で旅費が高騰したため中止しました。十四年五月十五日の五稜郭祭参加をテーマに企画を練直し、十四年新年総会迄に詳細を固め、改めて参加者を募集します。



松前桜鑑賞会

産香取神社
道南会 松前会 上磯会



第二十回函館をおもひ会

関西地区の「函館をおもひ会」は創立二十周年を迎え、二月十八日(日)午後「ライオンズホテル大阪」で開かれた百三十五名の参会者の他、井上函館市長はじめ来賓十三名を数える盛会であったこれは「おもひ会」の池田克彦会長のご努力の成果であり、函館出身の関西在住者の熱い支持を受けている結果である。道南会から田沼副会長が出席、祝辞を述べ、今後の緊密な提携を誓った。

祝賀会参加会員名簿

安達昌子、阿部正身、池上謹之助、石田端市川一彦、一戸光一、伊藤博、岩城哲郎、伊勢田良子、上田航、上村直文、内田ミツル、近江茂樹、岡田牧人、大武京子、逢坂義巳、小山光、加我光徳、金田誠一、川守田孝平、川守田礼子、木戸正文、木村幹雄、工藤昭吾、小泉文雄、小坂鉄雄、小林寅雄、小林嘉則、小森良彦、小山育子、齋藤貞子、酒井充子、坂本保子、佐々木直、澤株尚子、島田瑞子、神れい子、菅原大作、杉田博子、高田和扶、高田嘉七、田代沙智子、田辺彩子、谷口雅典、田沼修一、田村治雄、田村保子、田村良人、田村房江、丹野康男、千葉恵子、出町卓、寺田耕治、照井陽子、時田司、徳田肇、徳谷博、島本玲子、長島康、中村隆俊、中山泰誇、新山春一、西村有人、沼崎貞良、沼崎茂子、根来美和子、能味寿哉、野崎弥寿子、橋本寛治、濱本欽彌、長谷川義洋、早坂茂三、原田美恵子、比嘉裕子、廣部卓也、福島紀、福田裕子、古井勝春、古川雅章、古里健三、松田昇、松前孝廣、松前良子、松原竹造、三國榮頭、三國比佐男、三村寿雄、葉袋泰、室谷邦雄、山木和子、山下弘治、山下静一、山根要、吉田すみれ、吉田孝、吉田淑子、渡邊宏司、岡田英樹、桑田節子、板垣寿見子、寺井俊一、宮本章次。

「国の「名勝」に指定された 香雪園（旧岩船氏庭園）」

香雪園（こうせつえん）は、行商から身を興して市内有数の呉服商となった岩船家により造成された、大規模かつ本格的な庭園です。

明治三十一年（一八九八年・一説には明治二十八年ともいう）、この頃、温泉保養地として豪商紳士の別荘が建ち並ぶようになった「湯の川」地区に造成され、当時の文献には「自然の溪や山の地形に人工の妙を加味し、実に理想的な庭園」また「庭園よりむしろ公園と呼ぶ方が妥当か。公開して人々の観覧に供している」と紹介されています。

十三ヘクタールを超える広大な園内には、大きく書院風の園亭や池などからなる純和風の「園亭庭園地区」、溪流の滝組など見事な景観を呈している「藤棚庭園区」、さらに煉瓦造りの温室と花壇などからなる西洋風の「温室庭園区」により構成されていますが、香雪園の見所はこうしたいくつもの庭園区が空間を共有しつつ景を構成しているところ、すなわち希有な「風景式庭園」が形成されているところにあります。

昭和三十四年に都市公園（見晴公園）として公有化がなされ、現在も市民の憩いの場となっていますが、函館市では、このように先人が今日まで伝え残した「緑



の遺産」を顕彰し、これを美しい姿のまま後世へと適切に引き継いでいくため国の文化財「名勝」に指定されるよう文部省に申請、去る五月十六日に国の文化審議会から「旧岩船家庭園（香雪園）」として指定の答申を得ました。

五稜郭公園に 箱館奉行所復元

幕末の箱館開港に際して設置された箱館奉行所は、ご存じの通り五稜郭にありました。五稜郭跡は稜堡と呼ばれる五つの突角を持つ星形五角形をしており、函館山からの夜景と共に、函館のシンボルとして全国的によく知られています。

箱館は開港によって蝦夷地の玄関口としてのみならず、名実ともにその中心となり奉行所が蝦夷地の統治、対外政策の拠点としての役割を果たしていました。

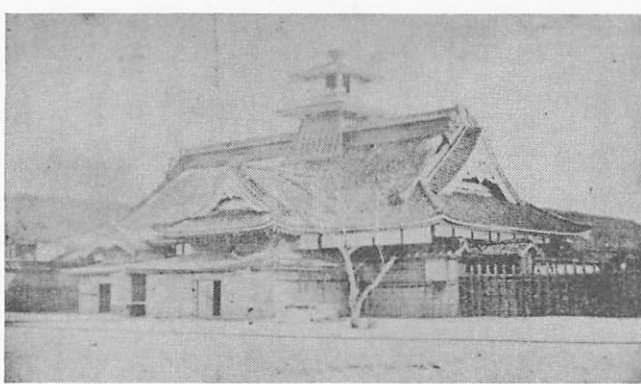
その後、戊辰戦争最後の戦いとなる箱館戦争の舞台となり、戦争終了後、五稜郭は蝦夷地の中心的役割を失い、奉行所庁舎など郭内建造物の大半が解体され、残るのは土蔵一棟のみになっています。

大正三年には公園として一般に開放され、大正十一年には国の史跡に、昭和二十七年には特別史跡に指定されています。

一方、特別史跡としては、奉行所関連建造物の殆どが失われているものの、辛うじて現存する土蔵（兵糧庫）は函館市に残る唯一の幕末期の建造物であり、土塁石垣など遺構も残っており、幕末から維新の激動期に重要な役割を果たした歴史上跡地として、今後も保存・継承すべき貴重な歴史的遺産となっています。

このため、五稜郭跡に箱館奉行所を復元して五稜郭跡本来の歴史的・文化的価値

を高め、貴重な文化遺産として活用するため、整備することとしたものです。



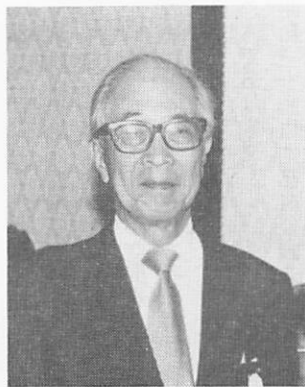
「五稜郭復元」年次計画

- ・平成十三年度―十六年度 文化庁との協議、許認可等基本設計、実施設計の期間
- ・平成十七年度―二十年度 奉行所著者復元整備期間
- ・平成二十一年度 公開の予定

「事業費概算 約四十億円」

山下名譽会長を偲んで

川守田 孝平



山下静一名譽会長が、三月二十五日、肺炎のため都内の病院で亡くなられた。九十二歳とはいえ、まだまだお元気であっただけに、亡くなったことが今でも信じられない。

私の叔父が函館商業学校で一緒だった

こともあり、初めてお会いした時「子供頃よく君の家に遊びに行ったことがあるよ」と伺ったが、その頃から記憶に止めて呉れていたのだらうと思っている。

その後、道南会や同窓会のお手伝いをするようになり、お会いする機会が増えた。時々、郵船ビルの事務所をお借りして打ち合せをすることがあり、話が済むと柵からウイスキーを出して振る舞って頂いたのが、昨日のことのように思い出される。

常々「機会があれば道南会として、ふるさと函館に恩返しをしよう」と考えておられ、創立三十五周年の記念行事として、建築家の岡田新一氏と評論家の早坂茂三氏の講演会を函館で開催した。

また、函館に記念の植樹をしようとの

提案もされ、創立四十周年記念事業の一環とし函館山の麓に植樹をする計画が固まっていた。山下さんに、この植樹の最初の锹入れをして頂きたかったが、それは叶わぬこととなってしまった。

平成三年道南会会長の時「北海道ふるさと会連合会」の会長を引き受けられて二年間勤められた。連絡協議会として発足したこの会が、丁度充実に差し掛る時であり、将来を踏まえた考えをもって現在の連合会の土台を固められた。

一つ残念なことがある。函商同窓会の機関誌「臥牛」の編集委員長から「山下さんに『二十一世紀に向けて』といった題で原稿をお願い出来ないか」と依頼があり、早速お願いした所、快く引受けて下さったが「最近眼が悪く原稿を書くのが

大変なので、口述するから君が原稿に纏めてくれ」と謂れ、お伺いしてお話を聞くことにしていた。

ところが、その約束を果たさないうちに山下さんは遠くに旅立ってしまった。その訃報を聞いた時、亡くなられるつい二十日程前、お元気なお声で「都合の良い時に連絡するよ」と仰有っていたのと思い、出る言葉もなかった。

五月八日、東京会館で催された「お別れの会」で、経済界の錚々たる方々を始め、大勢の参列者の捧げる白い菊の花に囲まれて、静に微笑んでいるような遺影に深く頭を垂れてお別れを告げた。

窓の外には、山下さんとの別れを悲しむかのように、小雨が音もなく降り続いていった。

函館と松戸の交流

会長 室谷 邦雄

私は昭和四十一年に松戸市に転入してから三十五年になります。函館在住の二十年よりも長くなりました。松戸市の人口は、転入当時は四万人に過ぎなかったものが、現在では四十七万人にもなっています。私は趣味のテニスなどを通じて、

親しい人が沢山できました。私は松戸と函館の間で何か交流の場ができないかと念願していましたが、最近この努力が具

体的に実現してきました。そのことについて二、三ご披露してみます。

一、はこだて観光大使（主として道南会員）と松戸観光大使の親善交流

松戸観光大使の制度（市内在住者の中からを任命）は、私が「はこだて観光大使」の名刺を松戸市長に手渡したことがきっかけで、平成十年に創設された経緯

があります。そんな関係で私が間に入り、

十一年三月二十七日に、松戸市の「戸定館」（最後の將軍、徳川慶喜と弟の昭武の別荘）で、「はこだて観光大使」と「松戸観光大使」の第一回の交流会を開きました。今年第二回として五月十九日に、函館側からは二上達也さんも出席、松戸市の「森のホール」で松戸市長も交えて開催しました。そのうちに松戸観光大使の函館訪問の機会を作りたいと考えております。

二、松戸シルバーテニス連盟と函館シニアテニス協会との交流試合

平成十一年七月二十八日、私が函館を訪れた時、函館テニス協会の関係者との間で「テニスを通じて、函館と松戸の交流を」との話が持ち上がりました。翌十二年五月十九日に、私が松戸市のシニアテニス愛好家を引連れて函館でテニス交流試合を行いました。

これを契機に「函館シニアテニスクラブ」が出来上がり、「函館シニアテニス協会」が結成されました。

続いて十二年十一月二十一日には、函館のメンバーが松戸に来て交流試合を行

い、この時、松戸市長からカップの奇贈を受け、函館側にお渡ししました。その後、函館では「松戸市長杯」争奪のテニス行事が行なわれています。いずれ松戸でも「函館市長杯」の奇贈を受け、同様な争奪戦を開催したいと思っています。

今年十月十七日に「大沼グリーンピア」で、両市の合宿交流会を企画しておりますが、道南会の会員で希望者があれば、是非ご一緒に遊びに行きませんか。テニスが出来なくても遊ぶところに事欠かな

二上達也さんの 受賞を祝う会

田 沼 修 二



昨年十二月一日、函館市は二上達也さんに「函館市栄誉賞」を贈った。これは日本将棋連盟会長として、道南地区を含め全国に将棋の普及発展に寄与されたこと、「はこだて観光大使」として、日頃

い大沼で、しかも三万五千円程度で三日の旅を楽しむことができます。

三、松戸市に「函館村」開村。

松戸市には昔からの住民が少なく、人口四十七万人の九割は他府県からの転入者です。「ふるさと会」のできる基盤があります。「ふるさと会」といえば、県人会のような府県単位のもの思い出しますが、県単位では範囲が大き過ぎます。しかし市町村単位であれば身近な話し合いができます。

から力を尽くされていることなどが評価された結果である。

二上さんに縁の深い諸団体の有志が集まって栄誉賞受賞をお祝いする会を開くこととした。二上さんの出身校の「青柳会」「白楊ヶ丘同窓会」函中同期の「玄羊会」それに「西高」「東高」の同窓会さらに「道南会」「日本将棋連盟」「二上道場」の代表が発起人を決め案内状を発送した。発起人代表に青柳、函中、道南会と縁の深い私が推された。

三月三日(土)午後六時から表参道のダイヤモンドホールで開かれた祝賀会は各団体から贈られた花輪が並び、二百人近い参加者で溢れる程であった。道南会の溝口由紀さんの司会で発起人挨拶や友人の祝辞が続ぎ、爽やかな羽生五冠は二上さんの詰将棋は難解で未だ解けないも

そこで私は、松戸市に市町村単位の「ふるさとグループ」の結成をPRしてはどうかと提案しました。これに対して、市の外廓団体である「松戸市都市整備公社」が、これを取り上げて「松戸市〇〇村」というグループを作る計画を考えてくれて、普及を図るということになりました。その第一号として八月上旬に「函館村」を開村することになりました。私が村長になり、函館出身者に呼び掛けることになっていきます。

のがあるという話、函中時代の棋友の内蔵太郎さんの若き日の二上さんの思い出話など参加者に印象を残した。

祝賀会第一部が終わり、第二部は二上さんの同級生で先年急死された竹澤氏の令嬢の加わっている「馬廉太鼓」の素晴らしい撥擲きが始まった。続いて成田雲竹女親子の津軽三味線の演奏が場内を沸かせる。

最後のパートは二上さんお得意のカラオケとなり、「函館の女」「イヨマンテの夜」などにつづいて、今夜のテーマ曲の「北上夜曲」を主賓が歌い、アンコールは裕次郎と浅丘るり子が函館の長期口ケで歌った「夕陽の丘」で締められた。

三時間の長帳場の最後は「ふるさと」を全員で合唱して散会した。

平成12年度収支報告 (自12年1月1日～至12年12月31日)

収入の部		支出の部	
前期繰越	939,698	行事費	1,554,032
年会費	752,000	会議交通費	166,518
行事会費	1,622,100	通信印刷費	603,598
寄付金	30,000	借家料	120,000
受取利息	397	手数料・雑費	219,642
		次期繰越高	680,405
合計	3,344,195		3,344,195

[次期繰越高内訳] 現金 20,792 普通預金 655,683
振替貯金 3,930 合計 680,405

宝小学校創立百二十三年祭

そして同窓会の解散

能 味 寿 哉

七月一日(日)晴れ、根崎町の海水浴場がオープン、元気な若者たちが初泳ぎを楽しんだこの日、末広町の五島軒本店で、標記の大きな宴会があった。

前夜、湯の川・花びしホテル別館の臥牛亭に妹と泊まった私は、大森浜の漁火通りをタクシーで走り、定刻前には会場に着いた。一階受付は大変なラッシュで氏名確認、会費収納、資料や記念品の入った紙袋手渡しなどに追われていた。今回、東京支部長として来賓によばれた私は大きな紅白の胸飾りをつけられて面映ゆい。東京からは私の他に前支部長の山本長太郎さんと、事務局長の梅崎総一さんの三人が来賓と呼ばれた。ロビーには東京支部の長老三浦光春さん佐藤清治さん小林宗一さん方が寛いでいた。妹は昭和九年の大火で焼失した宝から変わった東川小学校同期の、服部ソノさん、若山英子さん、若杉節子さん方にむかえられ、それこそ卒業いらいの邂逅に、お互いの顔を見つめ合い、手を取り合つての大感激であった。

頑張ってくれたと、C卓の私は昭和九年卒業の東京勢の神永正治郎、佐藤嘉男両君らと語り合つていた。

定刻一時、乳井邦衛氏の司会で、開会の言葉を村上翁氏が述べ、物故者を偲んでの黙祷。次いで鈴木敏子さんが、懐かしい校歌を三番まで見事に全員をリードして爽やかな幕開けを迎えた。同窓会の



二階王朝の間に設けられたA卓から卓までの九つの円卓には、出席者名の名札が置いてある。事務局長の伊藤博君の気配りであろうが、その伊藤君はここ数年入退院を繰り返しながら今日のために

十二年に第二東川小とともに現在の東川小学校に統合された。同窓会は創立百周年にあたる昭和五十三年に設立され、隔年総会を開いてきたが、会員の高齢化のため運営に重大な支障をきたすと認められるに至り、やむなく解散することとなった。真に残念でならないが、これかも「宝」に学んだ誇りをもって生きてほしい」との切ない胸中を吐露しての簡潔な挨拶に、参会者からは今までよくやってくれて有難う、ご苦労さんでした!との思いが伝わる盛大な拍手が送られた。

また札幌支部長の谷川伸氏と、東京支部を代表して私からも所感をひと言述べてさせて頂いたが、万感の思いから用意した挨拶と異なる内容となり、皆さんにお許しを乞う羽目になった。

一同期待の大宴会・同窓会のお別れパーティーが始まったのは午後二時半すぎ。東京の小林宗一さんの妙なるハーモニカで、曾ての「卒業式の歌」がそれこそ名残り惜しく歌われたあと、三浦大先輩の発声で「カンパニー」

五島軒の自慢の中華料理などが卓上を彩りよくにぎわしている。テーブルスピチでは、函商一期先輩の田脇由夫さん他何人かが感懐を語られたが、元相模原国立病院長の三上理一郎氏の「明治九年に北海道大学の前身の札幌農学校が設立されて、その二年後に宝小学校が開設されたのは、道内における小学校教育の魁けとして、その緊急かつ重要性を認めて行なわれたもので、改めて宝小の存在意義を認識している」の発言は、一同の心に共感するものがあった。

午後四時近く、伊藤事務局長の永年に亘る献身的活動に対し谷野定次理事から感謝状が記念品とともに贈呈された。伊藤君のやつれた面、窪んだ瞳に光るものを見て私は精一杯の拍手を送った。

この度の帰函では道南会員の「花びしホテル」の西村有人常務に大変お世話になったことを記して結びとしたい。

函館弁(その五)

川守田 孝 平

「な行」

ながさる 泣けてくる

ながまる 横になる

なげる 捨てる (ゴミなどを)

なして どうして

なつき 額 おでこ

なまするい 悪がしい

なまらはんちやく 中途半端

なめたかんだ どうしても

なんぼ いくら いくつ

なんぼが どんなにか

なんぼなんでも いくらなんでも

なんも なんでもない

なんもかんも なんにもかにも

すべて

なんもなんも どうしてどうして

なんもなんも どういたしまして

(に) じゃがいも

にどいも えぞにゆう

によ (うどに似た植物)

(ぬ)

ぬがした 追い抜いた

ぬがす 脱がす(衣服を)

ぬがす 追い抜く

ぬぐい 温かい

ぬったぐる

(ぬ) 塗りたくる

ねがせでおぐ 発酵させるため

ねつばらさる 暫らくおいておく

ねつばる 粘り着く

ねまる 粘る

ねれ 坐る 寝そべる

(の) 寝なさい

のさつと のっそり

のたのた のそのそ

のな 紫うに

のへらつと ぼんやりと

のんべ 酒飲み

「は行」

(は) 馬を後退させる

ばいき 掛け声

はがいく はかどる

はかはかする はらはらと気をもむ

はぐ 掃く(庭など)

はぐ 履く(靴など)

はぐる 交換する

はしこい 素早い すばしこい

ばしゃおい 馬車屋 馬の御者

馬車追い

はだぐ たたく なぐる

鍋の底が見える

はだげる

までさらう 着物の前や襟を だらしなく広げる

はだける

広げる

はだこ

肌じゅばん

ばちこ

末っ子

はつかい

露の臺(とう)

ははげだ

のどにつかえて

ははげる

吐き出した

はらぼつけ

のどにつかえる

はらんべわるい

妊婦

はんかくさい

腹の虫が納まらない

ばんきり

間抜け 馬鹿

ばんげ

何時も 始終

ばんとした

晩

(ひ)

立派な 上等な

ひかた

低気圧の南西風

ひざかぶ

膝頭

べごもち

小牛はこつこべて べこ餅 (臥牛型に拵えた)

べたらつと

べたつと べつたり

べつたらこい

へびの腹雲

へら

へらめかす

べらめかす

べろ

べろかけ

べろすけ

べんふる

(ほ)

ほいど

ほう

ほぎ

ほごる

ほつたぐる

ほつちやれ

ほつちやれだ

ほどる

ほまえだれ

ほまち

ほれ

ほろう

ほんすねえ

判らない

判らない

十三年度前半行事報告

☆「創立四十周年記念祝賀会」

一月二十日(土) 午後一時より内幸町
プレスセンターホール。

☆「観梅会」

二月二十四日(土) 午後二時三十分

生憎冷たい小雨の降る中、新宿御苑正
門前の待合所に集まったメンバーは室谷
会長ほか十二名。折から紅梅も白梅も満
開で、雨にもめげず研をきそつていた。
苑内の茶室「楽羽亭」に雨宿りをしながら
抹茶と和菓子で、道南会としては珍し
く酒に縁のない梅見の会を楽しんだ。

☆「観桜会」

三月三十一日(土) 町田市「薬師池公
園」で観桜会を予定したが、生憎の雨の
ため中止。

☆「松前桜を鑑賞する会」

四月十四日(土) 正午、亀有香取神社

道南会夏期懇親会

一、平成十三年九月八日(土) 一時

(受付開始〇時三〇分)

二、場所 ホテル聚楽(じゅらく)

(お茶の水駅傍・地図別添)

三、会費 六〇〇〇円

(女性 五〇〇〇円)

四、九月一日までに同封返信葉書に

記入、投函して下さい

☆「鎌倉散策」

六月十三日(水) 梅雨の晴れ間の一日
鎌倉の神社とお寺めぐりを行なった。鎌
倉は、紫陽花の見頃とあって、女性を中
心とした大勢の人で賑わっていた。



鶴岡八幡宮にお詣りしたあと、薬師堂
谷の最奥にある覚園寺に向い、寺僧の案
内で色とりどりの紫陽花の咲く境内を歩
いた。日光、月光の両脇侍を従えた本尊
の薬師如来や、黒地藏と呼ばれる地藏菩
薩像など、貴重な仏像が多くあった。

次に鎌倉の花の寺といわれる瑞泉寺に
立ち寄り、本堂裏の夢窓疎石作の庭園の
前で昔を偲んだ。今回は北鎌倉の寺院を
廻ってみたい。参加者 十八名。

☆「矢切の渡し」

七月二十一日(土) 午前十一時

北総鉄道「矢切」駅に十一名が集合、
炎天下を約三十分歩いて伊藤左千夫の「野
菊の墓」を拝観。一休みして江戸川縁の
名所となっている「矢切の渡し」に着く。

昔ながらの手漕ぎの小舟で対岸の柴又ま
で約十分間程の川遊びだが、一昨年珍し
い増水で舟止めに合い、残念な思いが残
っていただけに、やっと念願を果たすこ
とができた。柴又では寅さん記念館や帝
釈天を見て自由解散。

☆「クリスマスファンタジー」

函館の年末のイベントとして定着しつ
つある「クリスマスファンタジー」が今
年も冬の函館に華やかな彩りを添える。
カナダの姉妹都市ハリファックスから
贈られる巨大なモミの木に点灯するクリ
スマスファンタジーは冬の函館の観光の
ポイントになってきた。今年も十二月一
日から二十五日まで、毎日午後四時半か
ら午前二時まで、ツリーのイルミネショ
ンに点灯される。この季節には観光業界
もサービスマン料金で(昨年は一泊二日で
一九八〇〇円)冬の函館観光に力を入
れる。一度お出かけになりませんか。

同窓会便り

◆函館東高同窓会

五月二十六日(土)

香港ガーデン 百三十名

◆東京常盤会

七月七日(土) 午後一時

新橋 新橋亭 三十名

◆東京函商同窓会

七月十四日(土) 午後二時

品川プリンスホテル 百八十名

◆東京幸小學校同窓会

九月二十九日(土) 午後五時

エルシー竹芝

◆函館西高庁立高女合同同窓会

十月二十日(土)

エビスガーデン

◆白楊ヶ丘同窓会東京支部総会

十月二十八日(土) 午後六時

ダイヤモンドホール

◆函館工業高校同窓会

十一月三日(土) 午後一時

芝弥生会館

◆東京青柳会

十一月十五日(木) 午後六時

ダイヤモンドホール

◆函館遺愛同窓会

十二月五日(水) 午前十時半

青学会館

会報「道南」十三年夏期号

発行 平成十三年八月六日

発行所 北海道道南会事務局

中央区日本橋三六一十

印刷所 (株)ソーラン社 (株)邦友内

中央区日本橋小伝馬町十六八